

1 地域がん診療連携拠点病院としての役割

当院は2007年1月28日に「地域がん診療連携拠点病院」に認定され、高度ながん診療を提供するために、認定病院に求められる様々な要件整備とがん診療関連業務の拡充を行ってきた。2010年2月に施設認定が更新された。

1 がん診療業務を支える院内体制

がん診療はまさにチーム医療の原点であり、「地域がん診療連携拠点病院」としての診療提供機能維持に求められる要件は多岐にわたる。そのため、院内における中心的・統括的組織としての「がん診療連携業務委員会」を設立し、その下部に個々の業務を集約する放射線治療、化学療法、がん相談支援、がん登録の4小委員会を設置している。

2 外来化学療法センターの現状

現在、日本においては2人に1人ががんに罹患し、多くの患者がその合併症や治療の副作用と戦っているが、その一方で治療は大きく進歩し、多くのがん種においてがんと共存しながら仕事を継続し生活の質を維持できる外来治療にシフトしてきている。

●**概要**▶ 当院では、2007年1月に地域がん診療連携拠点病院に認定され、外来化学療法センターを設置、これまで消化器内科、呼吸器内科、血液内科、感染症内科、外科、乳腺外科、小児科、婦人科、泌尿器科、整形外科、皮膚科、腎臓内科の計12科について、2011年度は合計月約230件、年間2639件のがん治療を施行した。

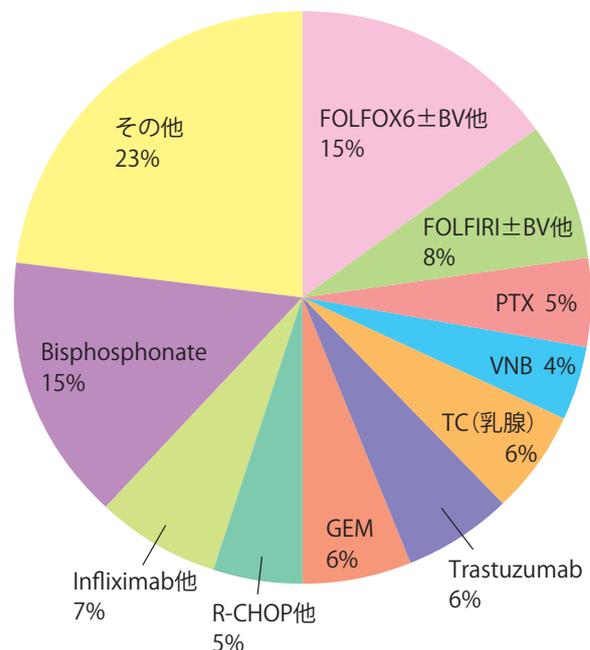
●**スタッフ**▶ 2008年にがん化学療法看護認定看護師が配属され、2010年1月からは専従医が勤務している。またセンターに隣接した薬剤調製室では専任薬剤師が外来患者及び入院患者に対する抗がん剤調製の業務も行っており、2011年度ののべ調製件数は入院症例4429件、外来症例9463件であった。

●**レジメン**▶ 院内のレジメンはすべて癌腫ごとに登録されており、現在総数250である。これらは全て院内で施行している化学療法小委員会でも検討し承認されたものであり、医師はレジメンフォルダーからしか処方できないシステムになっているため、高い安全性を確保できている。2011年度の外来化学療法センターでの施行レジメンの内訳を図1に示す。消化器癌、乳癌、肺癌、血液癌で約50%以上を占め、近年の特

徴として分子標的薬の投与も増加している。

- がん患者カウンセリング**▶ 2010年10月から初診患者を中心に認定看護師と専従医により施行している。2011年度は131件であった。カウンセリングの内容としては、治療内容、有害事象の説明、確認と初期クール終了後の有害事象の評価、入院中の投与における問題点、外来化学療法を施行するに当たっての問題点、緩和ケアの必要性評価であり、それらをセルフケア支援、服薬指導、緩和ケアの導入などにつなげるべくチーム医療を根底に活動している。有害事象については積極的にCTCAEガイドラインにより客観的評価し、誰がいつ見ても同一基準で情報を共有できるように努めている。
- 2012年度の目標**▶ 月約350件、年間4200件の投与、初診患者カウンセリング年約200件、癌腫別レジメンの更なる統一、がん治療勉強会の開催、化学療法ラウンド開始による情報の共有、ガイドライン使用の普及を進めたい。そして実際の投薬業務の範疇を超え、がん患者の精神的、身体的ケアや、服薬指導、各診療科との連携による密なカンサーボード、緩和ケアの充実、在宅医療へのスムーズな移行など、今後地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たし、京都府におけるがん治療の均填化をめざしていきたい。

■ 図1 2011年度 外来化学療法センター施行レジメン



3 放射線治療体制の充実

2007年度の厚生労働省による放射線治療機器緊急整備事業で、当院にリニアック緊急整備補助金が交付され、2009年8月に最新鋭リニアックが配備された。このリニアックにはガントリーにkV管球とフラットパネル検出器が取り付けられており、kVビームによる明瞭な画像による骨照合や、透視像での照射目的病巣の描出、コーンビームCTの撮像も可能となり、最先端の外照射が可能となった。この高性能リニアックにより、通常照射においても腫瘍に対する線量集中性の向上や、正常組織への線量軽減が図れているが、さらにハイテク照射の極みである高精度放射線治療も可能となった。2009年10月からは肺癌や肺転移、肝癌や肝転移に対するいわゆるピンポイント照射である体幹部定位照射、2010年2月からは脳腫瘍や脳転移に対する脳定位照射、2011年2月からは施設認定を受け、保険診療として強度変調放射線治療（Intensity Modulated Radiotherapy：IMRT）を開始した。またIMRTの中でも最新鋭治療とされている強度変調回転照射（Volumetric Intensity Modulated Arc Radiotherapy：VMAT）も同時に開始した。現在IMRT・VMATの対象を全癌種に拡大し、根治的照射はもとより、予防的照射、緩和的照射にも力を発揮している。

また最新鋭外部照射治療のみならず、すでに2007年から開始している子宮癌等に対するCTやMRIを併用した先進的な画像誘導の高線量率（HDR）腔内照射、2008年から開始した前立腺癌に対するヨード125シード永久挿入術、前立腺癌や子宮頸癌、乳癌術後等に対するHDR組織内照射、多発性骨転移に対するメタストロン治療などの充実した内照射、内用治療を行っている。

当院はこのような充実した外照射、内照射、内用治療を、自在に最適に組み合わせることによって、患者さんに優しいがん治療を目指しており、さらに地域がん診療連携拠点病院として技術・知識・経験の蓄積を行い、地域医療機関との連携をさらに深め、国内有数の総合的包括的放射線治療施設を目指している。さらに2013年春の新棟整備完成後は2台のリニアックが稼働するので、なお一層の放射線治療機能の拡充を目指している。

4 がん相談支援業務の現状

がん診療には、地域の医療機関からがん患者を受け入れ、当院での高度ながん治療を行った後に治療の継

続として地域の医療機関に紹介する、いわゆる切れ目のない地域医療連携が重要である。この業務の中心的役割を果たす地域医療連携室では、病院間の転院調整（病病連携）、在宅療養に向けた福祉介護サービス担当者との調整、在宅療養の中心的役割を担う診療所との調整（病診連携）や、患者や家族の精神的・経済的不安に対する療養相談などを行っている。2011年度には延べ726名への相談・支援業務を行った。また、平成23年9月から、京都府内共通の肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん及び乳がんの地域連携クリティカルパス（地域連携手帳）の運用を開始し、質の高い医療提供と連携を図っている。

年2回定期開催している「京都市立病院地域医療フォーラム」では、1回はがん診療関連テーマを取り上げており、地域の医療施設職員に対する教育・啓発活動を行っている。2012年2月11日には第16回として「切れ目のないがん医療を考える」を開催した。

がん患者と家族の会「みぶなの会」は2009年6月に発足したが、2010年10月には回数を月1回から2回に増やして定期開催している。患者間の情報交換の場所としてのみならず、隔月に頭髪ケア、分子標的治療、口腔ケア、緩和ケア、こころのケア、術後の尿もれ対策などに関する学習会を同時に開催しており参加者から好評を得ている。2011年度は延べ254名が参加した。また2010年11月に始まった乳がん患者の会「ビスケットの会」年3回の定例会、月1回の“乳がんサロン”の運営も支援している。

当院は京都府がん医療戦略推進会議・相談支援部会の事務局として、京都府下のがん診療連携拠点病院・連携病院・推進病院と共に相談支援の均てん化に向けて取り組んでいる。

5 がん登録業務の現状

2006年後半より診療情報管理室が管理する形式で国立がん研究センターの標準登録様式に則した院内がん登録制度を全診療科に適用し、このデータを基に京都府へのがん登録を行っている。院内がん登録（国立がん研究センターに報告）総数・地域がん登録（京都府に報告）総数は、2007年：773症例・710症例、2008年：940症例・865症例、2009年：1005症例・887症例、2010年：1124症例・1045症例と年々増加しており、2011年の京都府への登録数は1200症例であった。これまでの手書き記載方式は、2008年5月の電子カルテ導入により簡素化・自動化され、複数診療

科からの重複登録が無くなり、より正確で迅速な登録が可能になった。このような登録制度の充実を受けて、予後調査業務も診療情報管理室が一括して実施している。2009年から始めた住民票照会による調査では、2007年・2009年診断症例について、2011年末現在、京都市在住で1年以上当院外来受診がなかった122症例に住民票照会による予後調査を行った。その結果77名の生存確認と28名の死亡確認が行えた。今後もより精度の高い予後調査を目指して住民票照会による予後調査を行う計画である。

6 緩和医療の充実

当院の緩和ケアチームは2006年4月に設立され、外科系医師3名、精神科医師1名、看護師4名（うち1名は2011年7月より緩和ケア認定看護師）、薬剤師2名ならびに歯科衛生士1名で構成されている。週一回、チームで病棟回診を行い、癌性疼痛、嘔気・嘔吐などの消化器症状、せん妄などの精神症状に対応する他、場合に応じて栄養科との連携により食欲低下や味覚異常をきたした患者には提供する食事に工夫を加えたり、免疫低下や抗がん剤による口腔トラブルには歯科衛生士による口腔ケアを行ったり、患者の生活の質の向上のための取り組みも同時に行っている。地域連携室とも連携を取り、切れ目なく在宅医療につなげる活動も行っている。また地域がん診療拠点病院として「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を2008年度より毎年一回実施し、病院内外からの受講の募集を行い、緩和医療の教育啓蒙の役割にも力を入れている。

2012年度よりチームの専従医師と専従看護師も配置され、厚生労働省の定めた緩和ケア診療加算の要件をみたす体制がとれ、がん診療初期からの緩和ケアの提供、迅速な症状緩和に取り組む次第である。さらに今後の課題として、地域での在宅医療との連携の強化、院内での緩和医療のさらなる啓蒙に取り組む予定である。

7 がん診療専門コメディカルの育成と認定資格修得に向けて

看護部門では2011年度までに7名の認定看護師が活動している。特にがん診療に関連の深い①がん化学療法、②緩和ケア、③がん放射線看護、3分野の認定看護師が中核となり、他分野の認定看護師と協働しながら、がん患者のサポートを行っている。又、2011年8月から緩和ケア認定看護師が専従として組織横断的活動を開

始し、がん患者の看護実践場面への介入、カンファレンス参加等により、各職場の看護師の支援や教育的介入が強化されている。

放射線治療体制の充実には、放射線治療の専門知識・技術を持った医学物理士・放射線治療品質管理士・放射線治療専門技師の配置・育成が必須であり、現在当院には3名の認定医学物理士が常勤しており、日常診療に当たるとともに、次世代の医学物理士育成にも当たっている。

薬剤科ではがん指導薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師2名が、がん診療に関するチーム医療に従事して専門性を発揮している。

8 がん症例検討の現状と課題

がん診療は、患者さんが来院して診断や治療を受け、退院して外来通院に至るまで、医師のみならず臨床病理検査技師、放射線科技師、看護師、薬剤師、理学療法士などの多職種がかかわっていくチーム医療の原点である。当院ではがん診療連携拠点病院の指定を期に、これまでの当該診療科医師だけで行っていた症例検討を改め、多職種が参加するカンファレンス、いわゆるCancer Board Meetingを目指してきた。しかし、すべてのがん症例を多職種で検討するという本来の機能が十分に備わっていないのが現状であり、機能の充実が今後の課題である。現在、消化器、呼吸器、泌尿器、肝臓、乳腺、血液の各領域で複数診療科と職種によるがん症例の検討会が行われている。2011年度の開催実績（開催回数；検討症例数）は、消化器：68回；129症例、呼吸器：36回；306症例、肝臓：19回；47症例、乳腺：31回；110症例、血液：9回；29症例、小児造血細胞移植：7回；21症例などであった。

2 平成23年度疾患別がん診療機能、診療実績、認定資格、治療指針、治療成績等について

V がん診療業務概要

■ 平成23年度疾患別がん診療機能、診療実績、認定資格、治療指針、治療成績等について

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(実人数) | 医師の専門分野・認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|--------------|------------------|--------------------|---|--|---|
| 肺がん 縦隔腫瘍 | 手術 | 59例 (胸腔鏡下手術48例) | 江村 正仁 呼吸器内科部長(呼吸器疾患の診断・治療、間質性肺炎の診断・治療) ・日本呼吸器学会指導医 ・日本呼吸器内視鏡学会指導医・日本内科学会認定医 中村 敬哉 呼吸器内科副部長(呼吸器疾患の診断と治療、睡眠時無呼吸症候群の診断・治療) ・日本呼吸器学会指導医・日本内科学会専門医 張 孝徳 呼吸器内科医員(呼吸器疾患の診断と治療) ・日本内科学会認定医 小林 祐介 呼吸器内科専攻医(呼吸器疾患の診断と治療) ・日本内科学会認定医 瀬戸瑠里子 呼吸器内科専攻医(呼吸器疾患の診断と治療) ・日本内科学会認定医 | 肺癌診療ガイドライン 2010年度版(日本肺癌学会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) 肺癌取扱い規約(改定第7版)2009年 | 非小細胞肺癌(2006~2010年度非手術症例) 1生率 30% 2生率 18% 小細胞肺癌(2006~2010年度非手術症例) 1生率 48% 2生率 17% |
| | 化学療法 | 121例 | 大迫 努 診療部統括部長(呼吸器外科、肺癌、縦隔腫瘍、胸腔鏡手術) ・日本胸部外科学会指導医 ・日本呼吸器外科学会専門医・日本外科学会指導医 ・日本呼吸器内視鏡学会指導医 ・日本呼吸器学会専門医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 | | |
| | 放射線療法 | 57例 | 宮原 亮 呼吸器外科部長(呼吸器外科、肺癌、縦隔腫瘍、胸腔鏡手術) ・日本胸部外科学会認定医 ・日本呼吸器外科学会専門医/評議員 ・日本外科学会専門医・日本臨床腫瘍学会暫定指導医 ・日本肺癌学会評議員 | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 2例 | | | |
| 胃がん 胃腫瘍 | 手術 | 54例 (腹腔鏡下手術17例) | 新谷 弘幸 副院長(消化器病、肝臓病) ・日本消化器病学会専門医(指導医) ・日本肝臓学会専門医(指導医)・日本内科学会認定医 吉波 尚美 総合内科部長(消化器病、肝臓病、内視鏡) ・日本内科学会専門医 ・日本消化器病学会専門医(指導医) ・日本消化器内視鏡学会専門医(指導医) ・肝臓学会専門医(指導医) ・日本内科学会専門医 ・日本がん治療認定医機構認定医 | 胃癌治療ガイドライン 2010年版(日本胃癌学会) 消化器内視鏡ガイドライン2006年版(日本消化器内視鏡学会) GIST診療ガイドライン 2010年(日本癌治療学会/GIST研究会) | 手術症例 5年累積生存率 IA 97.8% IB 95.6% II 76.9% III A 54.1% III B 18.5% IV 5.1% 全体 70.3% (2010年3月末現在) |
| | 内視鏡的切除術(EMR-ESD) | 65例 | | | |
| | 化学療法 | 62例 | | | |
| | 放射線治療 | 1例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 大腸がん 大腸腫瘍 | 手術 | 89例 (腹腔鏡下手術45例) | 桐島 寿彦 消化器内科副部長(消化器病、肝臓病、がん薬物療法) ・日本消化器病学会専門医・日本肝臓学会専門医 ・日本内科学会認定医 ・日本がん治療認定医機構認定医 ・日本消化器内視鏡学会専門医 ・日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 山下 靖英 内視鏡室副部長(消化器病、内視鏡) ・日本消化器病学会専門医 ・日本消化器内視鏡学会専門医(指導医) ・日本内科学会認定医 ・日本がん治療認定医機構認定医 | 大腸癌治療ガイドライン 2010年版(大腸癌研究会) GIST診療ガイドライン 2010年(日本癌治療学会/GIST研究会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 手術症例 5年累積生存率 IA 100.0% IB 96.4% II 87.4% III A 77.6% III B 62.7% IV 16.3% 全体 70.8% (2010年3月末現在) |
| | 内視鏡的切除術(EMR-ESD) | 154例 | | | |
| | 化学療法 | 140例 | | | |
| | 放射線治療 | 2例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 肝がん 肝腫瘍 | 手術 | 19例 | 元好 貴之 消化器内科医長(消化器病) ・日本内科学会認定医・日本消化器病学会専門医 ・日本がん治療認定医機構認定医 ・日本消化器内視鏡学会専門医 高井 孝治 消化器内科医員(消化器病) ・日本内科学会認定医 ・日本がん治療認定医機構認定医 西方 誠 総合内科・消化器内科医長(消化器病) 松田 昌悟 消化器内科医員(消化器病) ・日本内科学会認定医 森本 泰介 副院長(一般外科、消化器外科、肝臓外科) ・日本外科学会専門医(指導医) ・日本消化器外科学会専門医(指導医) ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 ・日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 | 肝がん診療ガイドライン 2009年版(科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン作成に関する研究班) | 全切除症例 5年累積生存率 60.2% (2010年3月末現在) |
| | 化学療法 | 21例 | | | |
| | 放射線治療 | 5例 | | | |
| | 穿刺療法(PEI/RFA) | 50(27/23)例 | | | |
| | 肝動脈塞栓術(TAE) | 74例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 食道がん | 手術 | 4例 | 山本 栄司 消化器外科部長(一般外科、消化器外科) ・日本外科学会専門医(指導医) ・日本消化器外科学会専門医(指導医) ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 ・日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 松尾 宏一 消化器外科副部長(一般外科、消化器外科) ・日本外科学会専門医 | 食道癌治療ガイドライン 2007年版(日本食道疾患研究会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 手術症例 5年累積生存率 0 100.0% I 67.9% II 63.3% III 43.2% IV 0.0% 全体 55.3% (2010年3月末現在) |
| | 内視鏡的切除術(EMR-ESD) | 5例 | | | |
| | 化学療法 | 19例 | | | |
| | 放射線治療 | 10例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 胆嚢がん 胆管がん | 手術 | 2例 | 里 輝幸 外科副部長(一般外科、消化器外科、外傷) ・日本外科学会専門医・JATECインストラクター 上 和広 外科副部長(一般外科、消化器外科) 玉置 信行 外科医長(一般外科、消化器外科) ・日本外科学会専門医 前田 敏樹 外科医長(一般外科、消化器外科) ・日本外科学会専門医・日本救急医学会専門医 玉木 一路 外科医員(一般外科、消化器外科) ・日本外科学会専門医 久保田 恵子 外科医員(一般外科、消化器外科) ・日本外科学会専門医・日本乳癌学会認定医 ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医 | 胆道癌診療ガイドライン(第1版)(日本肝胆膵外科学会、日本癌治療学会) | 全切除症例 5年累積生存率 48.9% (2010年3月末現在) |
| | 化学療法 | 15例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 膵がん 膵腫瘍 | 手術 | 5例 | 膵癌診療ガイドライン 2009年版(日本膵臓学会) IPMN/MCN国際診療ガイドライン(国際膵臓学会ワーキンググループ) | 全切除症例 5年累積生存率 35.8% (2010年3月末現在) | |
| | 化学療法 | 22例 | | | |
| | 放射線治療 | 2例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(実人数) | 医師の専門分野・認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|-------------|-----------------|------------------|---|---|--|
| 乳がん 乳腺腫瘍 | 手術 | 73例 | 森口 喜生 乳腺外科部長(一般外科、消化器外科、乳腺外科) ・日本外科学会専門医(指導医) ・日本乳癌学会専門医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 | 乳腺診療ガイドライン2011年版(日本乳癌学会) | 手術症例 10年累積生存率 I 94.5% IIA 89.2% IIB 83.5% IIIA 76.2% IIIB 63.8% IV 32.1% 全体 83.9% (2010年3月末現在) |
| | 化学療法 | 364例 | | | |
| | 放射線療法 | 116例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 前立腺がん | 手術 | 4例 | 清川 岳彦 泌尿器科部長(泌尿器科癌、前立腺癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医 ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 齊藤 亮一 泌尿器科医長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 前立腺癌診療ガイドライン2012年版(日本泌尿器科学会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法(ホルモン療法) | 188例 | | | |
| | 放射線療法(組織内照射) | 12例 | | | |
| | 放射線療法(外照射) | 44例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 膀胱がん | 手術(膀胱全摘) | 3例 | 清川 岳彦 泌尿器科部長(泌尿器科癌、前立腺癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医 ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 齊藤 亮一 泌尿器科医長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 膀胱がん診療ガイドライン2009年(日本泌尿器科学会) | |
| | 経尿道的膀胱腫瘍切除(TUR) | 87例 | | | |
| | 化学療法(膀胱注入含む) | 55例 | | | |
| | 放射線治療 | 3例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 腎盂尿管がん | 手術 | 2例 | 清川 岳彦 泌尿器科部長(泌尿器科癌、前立腺癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医 ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 齊藤 亮一 泌尿器科医長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 膀胱がん診療ガイドライン2009年(日本泌尿器科学会) | |
| | 化学療法 | 7例 | | | |
| | 放射線療法 | 2例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 精巣がん | 手術 | 1例 | 清川 岳彦 泌尿器科部長(泌尿器科癌、前立腺癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医 ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 齊藤 亮一 泌尿器科医長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 精巣腫瘍診療ガイドライン2009年版(日本泌尿器科学会) | |
| | 化学療法 | 1例 | | | |
| | 放射線療法 | 0例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 腎がん | 手術 | 2例 (腹腔鏡下手術3例) | 清川 岳彦 泌尿器科部長(泌尿器科癌、前立腺癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医 ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 泌尿器科副部長(泌尿器科癌、腹腔鏡手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) ・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 齊藤 亮一 泌尿器科医長(泌尿器科癌、泌尿器科手術) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 腎癌診療ガイドライン2011年版(日本泌尿器科学会) | |
| | 化学療法 | 5例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 子宮がん | 手術 | 73例 | 藤原 葉一郎 産婦人科部長(婦人科腫瘍、周産期管理、産婦人科感染症、性感染症) ・日本産科婦人科学会専門医 ・日本周産期・新生児医学会周産期(母体・胎児)専門医 ・日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 ・日本性感染症学会専門医 江口 雅子 周産期部長(婦人科一般・周産期管理) ・日本産科婦人科学会産婦人科専門医 大井 仁美 産婦人科医員(周産期管理) ・日本産科婦人科学会専門医 小園 祐喜 産婦人科医員(婦人科一般) ・日本産科婦人科学会会員 | 子宮頸癌治療ガイドライン2011年版(日本婦人科腫瘍学会編) 子宮体癌治療ガイドライン2009年版(日本婦人科腫瘍学会編) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 38例 | | | |
| | 放射線療法 | 40例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 卵巣がん | 手術 | 20例 | 藤原 葉一郎 産婦人科部長(婦人科腫瘍、周産期管理、産婦人科感染症、性感染症) ・日本産科婦人科学会専門医 ・日本周産期・新生児医学会周産期(母体・胎児)専門医 ・日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 ・日本性感染症学会専門医 江口 雅子 周産期部長(婦人科一般・周産期管理) ・日本産科婦人科学会産婦人科専門医 大井 仁美 産婦人科医員(周産期管理) ・日本産科婦人科学会専門医 小園 祐喜 産婦人科医員(婦人科一般) ・日本産科婦人科学会会員 | 卵巣がん治療ガイドライン2010年版(日本婦人科腫瘍学会編) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 13例 | | | |
| | 放射線療法 | 4例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 2例 | | | |
| 頭頸部がん | 手術 | 18例 | 豊田 健一郎 耳鼻咽喉科副部長(耳鼻咽喉科一般) ・日本耳鼻咽喉科学会専門医 ・日本気管食道科学会専門医 井上 麻美 耳鼻咽喉科医長(耳鼻咽喉科一般) ・日本耳鼻咽喉科学会専門医 | 頭頸部がん取り扱い規約 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) がん疼痛ガイドライン(日本緩和医療学会) | |
| | 化学療法 | 34例 | | | |
| | 放射線療法 | 13例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |

V がん診療業務概要

V がん診療業務概要

平成23年度疾患別がん診療機能、診療実績、認定資格、治療指針、治療成績等について

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(実人数) | 医師の専門分野:認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|------------------|---------------|----------------------|---|--|---|
| 甲状腺がん | 手術 | 20例 | 豊田 健 一郎 耳鼻咽喉科副部長(耳鼻咽喉科一般) ・日本耳鼻咽喉科学会専門医 ・日本気管食道科学会専門医 | 甲状腺癌取り扱い規約第6版(甲状腺外科学会) 放射線治療計画ガイドライン2004年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 0例 | 井上 麻美 耳鼻咽喉科医長(耳鼻咽喉科一般) ・日本耳鼻咽喉科学会専門医 | | |
| | 放射線療法 | 0例 | 小松 弥郷 内分泌内科部長(内分泌代謝学全般) ・日本内分泌学会専門医(指導医) | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | 旗谷 雄二 内分泌内科副部長(内分泌代謝学全般) ・日本内分泌学会専門医(指導医) ・日本甲状腺学会専門医 | | |
| 血液腫瘍(白血病、リンパ腫など) | 化学療法 | 124例 | 伊藤 満 血液内科部長(臨床血液学、造血器悪性疾患の治療、造血幹細胞移植) ・日本血液学会専門医(指導医) ・日本臨床腫瘍学会暫定指導医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 認定医 | 造血器腫瘍取り扱い規約2010年3月 第1版(日本血液学会) | 血液内科 非血縁者間骨髄移植や臍帯血移植にも対応している。 ミニ移植やHLA一部不適合ドナーからの移植も行っている。 自家末梢血幹細胞移植5年生生存率(全例)67.9% |
| | 移植 | (同種移植)4例 (自家移植)3例 | | | |
| | 放射線治療 | 24例 | 宮原 裕子 血液内科副部長(臨床血液学、造血器悪性疾患の治療、造血幹細胞移植) ・日本血液学会専門医 ・日本臨床腫瘍学会暫定指導医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 認定医 | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| | 無菌室設置の有無(病床数) | 4床 | 松井 道志 血液内科医長(臨床血液学、造血器悪性疾患の治療、造血幹細胞移植) | | |
| 小児血液腫瘍・小児腫瘍 | 化学療法 | 5例 | 黒田 啓史 小児科部長(血液・悪性腫瘍) ・日本小児科学会専門医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医 認定医 ・日本血液学会専門医 ・日本小児血液がん学会暫定指導医 | 小児白血病研究会(JACLS):ALL-02 日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG):AML-05、AML-D05、AML-P05、LLB-NHL-03、B-NHL-03、ALL-R08、HLH2004、MLL-10、TAM-10、ALL-T11 日本ランゲルハンス細胞組織球症研究グループ(JLSG):LCH-02 日本神経芽腫研究グループ(JNBSG)治療指針 | 造血細胞移植に力を入れている。 |
| | 移植 | (同種移植)4例 | | | |
| | 手術 | 0例 | 清水 恒広 感染症科部長(感染症一般・小児血液・腫瘍性疾患の診断と治療) ・日本小児科学会専門医 | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | 大曾根 真也 小児科医長(血液・悪性腫瘍) ・日本小児科学会専門医 ・日本がん治療認定医機構認定医 ・日本血液学会専門医 ・日本小児血液がん学会暫定指導医 | | |
| | 無菌室設置の有無(病床数) | 2床 | | | |
| 脳腫瘍 | 手術 | 14例 | 村井 望 脳神経外科部長(脳神経外科一般) ・日本脳神経外科学会専門医 | 放射線治療計画ガイドライン2004年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 0例 | 岡本 洋 脳神経外科医長(脳神経外科一般) ・日本脳神経外科学会専門医 | | |
| | 放射線療法 | 21例 | 河原崎 知 脳神経外科医長(脳神経外科一般) ・日本脳神経外科学会専門医 | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 性腺外腫瘍 | 化学療法 | 1例 | 藤原 菜一郎 産婦人科部長(婦人科腫瘍) ・日本産科婦人科学会専門医 ・日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 骨軟部腫瘍 | 手術 | 0例 | 村井 望 脳神経外科部長(脳神経外科一般) ・日本脳神経外科学会専門医 | 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 0例 | 清川 岳彦 泌尿器科部長(泌尿器科癌治療) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) | | |
| | 放射線療法 | 58例 | 山本 栄司 消化器外科部長(一般外科、消化器外科) ・日本外科学会専門医(指導医) ・日本消化器外科学会専門医(指導医) | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | 森口 喜生 乳腺外科部長(一般外科、消化器外科、乳腺外科) ・日本外科学会専門医(指導医) ・日本乳癌学会専門医 | | |
| 皮膚腫瘍 | 手術 | 13例 | 小西 啓介 皮膚科部長(皮膚科全般) ・日本皮膚科学会認定皮膚科専門医(指導医) | 皮膚悪性腫瘍ガイドライン(日本皮膚科学会) | 集学的治療を要する場合は、京都府立医科大学附属病院へ紹介(5例) |
| | 化学療法 | 0例 | 坂元 花景 皮膚科医長(皮膚科全般) ・日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 | | |
| | 放射線治療 | 1例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 原発不明がん | 化学療法 | 4例 | すべてのCancer Board Meeting が合同で症例検討し、担当診療科を決定 | 原発不明がん診療ガイドライン2010年版 | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(実人数) | 医師の専門分野・認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|----------|---------------------------|-----------|--|---------------------------------|------------------------------|
| 眼腫瘍 | 手術 | 0例 | 小泉 閑 眼科部長(網膜硝子体疾患) ・日本眼科学会専門医 | | |
| | 眼動注 | 0例 | 鈴木 智 眼科副部長(角膜疾患) ・日本眼科学会専門医 | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | 吉田 祐介 眼科医長(眼科一般) ・日本眼科学会専門医 | | |
| 脊椎腫瘍 | 手術 | 3例 | 多田 弘史 脊椎外科部長 ・日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 ・日本整形外科学会専門医 ・日本整形外科学会脊椎脊髄病医 | 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 主に癌の脊椎転移による脊髄麻痺に対する手術を行っている。 |
| | 化学療法 | 0例 | | | |
| | 放射線治療 | 2例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| その他のがん | 手術 | 2例 | | | |
| | 化学療法 | 4例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 放射線診断・治療 | 放射線治療・IVR実績は各疾患欄に集約して記載済み | | 早川 克己 担当部長 ・日本医学放射線学会専門医 ・日本 IVR 学会専門医 藤本 良太 放射線診断科部長 ・日本医学放射線学会専門医 谷掛 雅人 放射線診断科副部長 ・日本医学放射線学会専門医 ・日本 IVR 学会専門医 立入 誠司 放射線治療科副部長 ・日本医学放射線学会専門医(治療) ・日本医学放射線学会医学物理士 ・日本放射線腫瘍学会認定医 ・放射線治療品質管理機構放射線治療品質管理士 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医 ・日本乳癌学会乳腺専門医 森澤 信子 放射線診断科医長 ・日本医学放射線学会専門医 ・検診マンモグラフィ読影認定医 里上 直衛 放射線診断科医長 ・日本医学放射線学会専門医 | 放射線診療計画ガイドライン2008年版(日本放射線学会) | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 診病理 | | | 河野 文彦 病理診断科医長(病理学) ・日本病理学会病理専門医 | | |